



## はな 花のおしべとめしべはどうちがうの

### おしべは花粉を作り、めしべは種を作る

動物にオス、メスがあるように、植物にもオス、メスがあります。おしべはオス、めしべはメスです。まず、形がちがいます。そして役目がちがいます。アブラナの花で調べてみましょう。アブラナには、おしべが6本あります。その中心に、1本のめしべがあります。おしべの先端のほうには、ふくろのようなものがあります。「やく」といい、おしべはここで花粉をつくります。めしべの先端をさわってみると、少しねばねばしています。花粉がつきやすくなっているのです。おしべの花粉が、めしべのねばねばしたところにつくことを、受粉といいます。受粉すると、花粉からは花粉管という管がのびて、めしべの根本にある胚珠に入り受精します。

### 「お花」と「め花」が別々のもの

アブラナでは、1つの花におしべもめしべもあります。このように、おしべとめしべがそろっている花を、完全花といいます。ところが、スイカ、メロン、ヘチマ、キュウリなどは、お花とめ花が1本のつるの中で別々につきます。お花にはおしべだけあり、めしべがありません。め花はその逆です。このような花を、不完全花といいます。また、カラスウリなどでは、お花だけつけるお株、め花だけつけるめ株というように、株が別々になるものがあります。このような植物を、雌雄異株（しゅういしゅ）といいます。

（監修・中山 周平）

